SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

旧制静岡高等学校関係資料の整理作業に関する経過報告(2013年度)

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 静岡大学人文社会科学部
	公開日: 2014-09-11
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 戸部, 健, 岩井, 淳, 今村, 直樹
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00007908

旧制静岡高等学校関係資料の整理作業に関する経過報告（2013年度）

戸部　健・岩井　淳・今村　直樹

はじめに

静岡大学人文社会科学部大学アーカイヴズプロジェクトでは、静岡大学人文社会科学部所蔵の旧制静岡高等学校および静岡大学文理学部・人文学部関係資料の整理・公開に向けた作業に2009年度より取り組んでいる[1]。

今年度のプロジェクトでは、①旧制静岡高等学校関係のガラス乾板の現像、②資料の展示、③県外のアーカイヴズへの訪問、を主な目標とし、達成に向けて努力した。その具体的な動きについて以下で紹介する。

1．2013年度の活動

（1）人文社会科学部A棟・B棟耐震工事の影響について

今年度、人文社会科学部A棟とB棟の耐震工事が実施された。それに先立つ8月上旬に旧制静岡高等学校関係資料はすべて人文社会科学部資料室から運び出され、1月初旬まで業者倉庫で保管されることになった。そのため、これまで継続して行なってきた静高資料の整理および展示は、この間まったく行なうことができなかった。

本稿を執筆している2月中旬現在、静高資料はすべてもとあった人文社会科学部資料室に戻っている。ただ、他の研究室の引っ越し作業などもあり、原状復帰できたとは言い難い。整理作業再開に向け、早急に復旧させる必要がある。

（2）旧制静岡高等学校関係のガラス乾板の現像

昨年度以来、人文社会科学部資料室に保管されている旧制静高関係のガラス乾板の現像を、静岡市内の写真業者に委託して実施している。ガラス乾板はそれぞれ数十枚ずつに分けられて箱に入れられており、そうした箱は現在確認されているだけで95箱ある（詳細は附録1を参照）。昨年度はそのうち20箱分のガラス乾板を現像したが、今年度はさらに数を増やし、約40箱分を現像した。それらに写っているのは、主に旧制静高の建物・授業・修学旅行・仰秀寮の寮祭・スポーツイベントなどの風景である。現像された写真はケースに入れられて、現在資料室に保管されている。これら写真は、在りし日の旧制静高の様子を視覚的に伝える貴重な資料であるだけでなく、大学のイメージアップをはかるためのツールでもある。実際、次年度の学部案内には、現像された写真の一部が掲載されること

---

[1] これまでの活動内容については、下記を参照いただきたい。戸部健「旧制静岡高等学校関係資料の整理作業に関する経過報告」『地域研究』創刊号、2010年。戸部健「旧制静岡高等学校関係資料の整理作業に関する経過報告（2010年度）」『地域研究』第2号、2011年。戸部健・小二田誠二・岩井淳「旧制静岡高等学校関係資料の整理作業に関する経過報告（2011年度）」『地域研究』第3号、2012年。戸部健・橋本誠一・岩井淳「旧制静岡高等学校関係資料の整理作業に関する経過報告（2012年度）」『地域研究』第4号、2013年。

になっている。

（3）資料の展示

昨年度に引き続き、今年度も人文社会科学部A棟玄関において資料の展示を行った。各展示のテーマと内容は以下のとおりである。

①「戦争と旧制静岡高等学校（1）」

展示期間：～2013年8月（その後、改修工事のため展示中止）

展示内容：昭和天皇行幸および軍事教練に関する文書資料（「教育勅語」、「昭和五年・一九年行幸台臨一件」、「昭和五年三月卒業教練考科表」）

②「戦争と旧制静岡高等学校（2）」

展示期間：2014年2月下旬より展示予定

展示内容：昭和天皇行幸および戦時下の旧制静岡高等学校に関する文書・写真資料（「昭和五年・一九年行幸台臨一件」、「支那事変一周年の詔書」、「紀元二六〇〇年の詔書」、仰秀寮の落書きおよび静岡歩兵第三四連隊に関する写真）

今後の展示のテーマとしては、「仰秀寮の歩み（2）」、「旧制静岡高等学校の廃校と人文学部への移行」などを予定している。

（4）県外のアーカイヴズへの訪問

昨年度は、地方の国立大学での事例を学ぶために小樽商科大学史料展示室、北海道大学大学総合博物館、鹿児島県歴史資料センター黎明館、鹿児島大学附属図書館歴史展示室などを訪問した。今年度もさらに多くの事例を見るために、岩井淳が金沢大学資料館を、湯之上隆と今村直樹が広島大学文書館を訪問した。各施設での調査の詳細については、巻末の附録2を参照いただきたい。

（5）物品の購入

現時点で必要な物品については、昨年度までで購入がほぼ完了している。そのため、今年度はアーカイヴズに関する新刊図書・雑誌を追加的に購入するにとどめた。

3．今後の課題

今年度の成果を踏まえて、来年度取り組むべきは以下の2点である。

（1）旧制静岡高等学校関係資料の整理

旧制静岡高等学校関係資料の整理については、今年度は改修工事のためほとんど手をつけることができなかった。次年度のできるだけ早い時期に作業を再開したい。

（2）ガラス乾板の現像

今年度かなりの量を現像したが、未着手のものも依然として多い。次年度も引き続き現像作業を行

なっていきたい。また、現像した写真のデジタル化も鋭意進める。写真資料は、学内外の人々に対して静岡大学をアピールする上で、抜群の効果がある。そのため、現像した写真を今よりも多くの人に見てもらうような方法を、今後検討していきたいと考えている。

（3）展示の入れ替え

スケジュールに基づいて、次年度以降も展示を続けていく。また、今年度からキャンパスミュージアムでも大学史の展示を行っているので、それとうまく連携しながら作業を進めていきたい。

（戸部　健）

（附録1）旧制静岡高等学校関係ガラス乾板資料箱一覧

番号	箱	注記	注記(日付)
1	ISOCHROM・茶	仰秀寮・全寮旅行	昭和11年4月25・6
2	NEOCHROM・茶	寮祭第11回	昭和11年10月
3	PORTRAIT　ORTHO・茶	全寮旅行湯ヶ原	昭和9年5月19日・20日
4	ISOCHROM・茶	仰秀寮・2号(各寮)	昭和12年4月
5	ISOCHROM・茶	寮祭映・魁	昭和12年10月16日
6	ISOCHROM・茶	仰秀寮・1号	昭和12年4月
7	ISOCHROM・茶	仰秀寮	昭和12年12月
8	ISOCHROM・茶	寮祭・町ストーム	昭和10年10月27日
9	Fuji dry plate・茶	静高校友会各部	昭和13年1月
10	1200ORIENTAL PLATES	静高柔剣道部インターハイ其の外	昭和13年
11	NEOCHROM・茶	静高運動会クラス記念撮影	昭和12年5月9日
12	ISOCHROM・茶	寮祭	昭和12年10月16日
13	ORIENTAL HYPER	仰秀寮全寮旅行	昭和13年4月23日24日
14	Fuji Panchromatic・茶	仰秀寮・全寮旅行	昭和16年5月3日4日
15	ISOCHROM・茶	全寮旅行第2号修繕寺	昭和10年5月11日12日
16	ISOCHROM・茶	寮祭　劇其二	昭和10年10月27日
17	茶・ラベルなし	寮祭・雑（第11回）	昭和11年10月
18	ORIENTAL・水色	No.1乾板ネガ43	
19	ORIENTAL・水色	No.2乾板ネガ47	
20	ORIENTAL・水色	No.3乾板8（赤鉛筆で消し） 原先生へ　旧制静高写真（メモ）	
21	Fuji DAYPLATES・茶	仰秀寮全寮旅行	昭和16年5月3日4日
22	Fuji DAYPLATES・茶	仰秀寮委員総代七月　卓球水泳	昭和14年9月
23	ORIENTAL PLATES・茶	仰秀寮二号　各寮記念撮影櫻花ノ前	昭和14年4月8日
24	ORIENTAL PLATES・茶	整	昭和14年9月

25	ORIENTAL PLATES・茶	仰秀寮　入寮ノ日・歓迎ストーム・富士ト櫻静高・寮ト富士	昭和 13 年 4 月
26	ORIENTAL PLATES・茶	仰秀寮　二号　全寮旅行	昭和 13 年 4 月 23 日 24 日
27	PORTRAIT SS PANCHROMATIC FILM・茶		
28	ORIENTAL PLATES・茶	仰秀寮各寮記念写真・委員（檄文ノ前）・歓迎全寮コンパ	昭和 13 年 4 月 8 日 9 日
29	Fuji DAYPLATES・茶	仰秀寮全寮旅行	昭和 15 年 5 月 4 日 5 日
30	ISOCHROM・茶	全寮旅行第一号　修禅寺	昭和 13 年 5 月 11 日 12 日
31	ISOCHROM・茶	仰秀寮全寮旅行特号甲	昭和 11 年 4 月 25 日 26 日
32	ISOCHROM・茶	静高寮蹴球・送別コンパ	昭和 11 年 1 月 2 月
33	Fuji DAYPLATES・茶	寮祭第 11 回 3 号劇	昭和 11 年 10 月 16 日
34	Fuji DAYPLATES・茶	寮祭第 11 回 4 号劇	昭和 11 年 10 月 16 日
35	茶・ラベルなし	劇	
36	Fuji DAYPLATES・茶	静高	昭和 11 年自 10 月至
37	APM PRATES NOSKRENE・茶	静高寮野球蹴球	昭和 8 年 12 月 2 日 3 日、昭和 9 年 1 月 21 日
38	THE IMPERIAL DAY PLATE・茶	静高寮対寮陸上競技（綱引）・水泳（水球）・寮の秋・委員及総代	昭和 8 年 6 月 9 月 10 月
39	ラベルなし・黒袋		
40	オリエンタル　ULTRA SPEED・茶	仰秀寮優勝旗返還・卓球・水泳	昭和 6 年 9 月 10 月
41	オリエンタル　ULTRA SPEED・茶	仰秀寮野球	昭和 16 年 9 月 10 月
42	ISOCHROM・茶	寮祭七号・町ストーム	昭和 10 年 10 月 27 日
43	ISOCHROM・茶	寮祭三号各室飾物	昭和 10 年 10 月 27 日
44	ISOCHROM・茶	寮祭二号寮飾物	昭和 10 年 10 月 27 日
45	ISOCHROM・茶	寮祭一号雑	昭和 10 年 10 月 27 日
46	ISOCHROM・茶	静高運動会一号	昭和 11 年 5 月 10 日
47	ISOCHROM・茶	静高	昭和 11 年自 5 月 1 日至
48	ISOCHROM・茶	仰秀寮一号入寮ノ日其他	昭和 11 年 4 月
49	ISOCHROM・茶	仰秀寮二号各寮記念其他	昭和 11 年 4 月
50	Agfa Isochrom-Platten・茶	静高寮	昭和 10 年 4 月 5 月
51	Agfa Isochrom-Platten・茶	静高寮卓球	昭和 9 年 5 月 6 月
52	Agfa Isochrom-Platten・茶	寮祭第九回三号	昭和 9 年 11 月 23 日

53	THE IMPERIAL DAY PLATE・茶	静高寮祭第八回二号	昭和 8 年 11 月
54	THE IMPERIAL DAY PLATE・茶	静高寮蹴球対寮仕合・図書館落成式・優勝旗授与・寮委員・寮総代	昭和 8 年 1 月 2 月
55	ISOCHROM・茶	寮祭番外	昭和 10 年 10 月 27 日
56	ISOCHROM・茶	寮祭四号劇・記念撮影	昭和 10 年 10 月 27 日
57	ISOCHROM・茶	静高寮水泳・水球	昭和 10 年 9 月
58	APM PRATES NOSKRENE・茶	静高寮入寮ノ日・檄文・ストーム・全寮コンパ・寮報用三種	昭和 9 年 4 月
59	ISOCHROM・茶	仰秀寮全寮旅行	昭和 12 年 4 月
60	ULTRA SPEED ORIENTAL PLATES	寮祭三号劇	昭和 13 年 10 月 15 日 16 日
61	Fuji DAYPLATES・茶	仰秀寮優勝旗返還・卓球・委員・総代	昭和 13 年 5 月 6 月
62	Fuji DAYPLATES・茶	仰秀寮返礼ストーム・卓球・優勝旗返還	昭和 12 年 5 月 6 月
63	ISOCHROM・茶	寮祭不二・穆	昭和 12 年 10 月 16 日
64	ISOCHROM・茶	寮祭悟・三年生	昭和 12 年 10 月 16 日
65	Fuji DAYPLATES・茶	寮祭第十一回一号・町ストーム	昭和 11 年 10 月 17 日
66	Agfa Isochrom-Platten・茶	寮祭第九回四号	昭和 9 年 11 月 22 日
67	Agfa Isochrom-Platten・茶	静高寮卓球・委員・其他	昭和 9 年 11 月 12 月
68	THE IMPERIAL DAY PLATE・茶	静高寮寮報用・陸上及水泳競技・其他	昭和 9 年 9 月
69	HYPER SENSITIVE PANCHROMATIC	静高航空部・卓球部・庭球部硬同軟・陸上競技部・仏教班一乗寺・文一丙・文二甲・弓道部・射撃部　二号	昭和 17 年 7 月
70	Fuji DAYPLATES・茶	仰秀寮各寮記念・全新寮生	昭和 15 年 4 月
71	Fuji PANCHROMATIC PLATES	仰秀寮陸上リレー・綱曳・送別コンパ・優勝旗授与	昭和 16 年 1 月 26 日
72	Agfa Isochrom-Platten・茶	静高関係	昭和 10 年 1 月 2 月
73	蓋なし		
74	蓋なし		
75	蓋なし		
76	Agfa Isochrom-Platten・茶	静高寮蹴球・優勝旗授与・其他	昭和 10 年 1 月

77	Agfa Isochrom-Platten・茶	静高関係	昭和10年1月2月3月
78	THE IMPERIAL DAY PLATE・茶	静高寮史編纂用第三号	昭和7年
79	SAKURA PLATE		昭和8年
80	蓋なし	整	昭和14年9月
81	Fuji DAYPLATES・茶	整	昭和14年9月
82	ULTRA SPEED ORIENTAL PLATES	仰秀寮綱曳・全寮送別コンパ・優勝旗授与・委員・総代	昭和14年1月2月
83	Agfa Isochrom-Platten・茶	静高寮入寮ノ日・ストーム・入寮式	昭和10年4月
84	THE IMPERIAL DAY PLATE・茶	静高寮入寮ノ日・檄文・全寮コンパ・寮報用（ツツジト四人）・ピンポン・全寮箱根旅行	昭和8年4月5月
85	蓋なし・ラベル不明	静高	
86	ISOCHROM・茶	仰秀寮寮報用風景・水泳	昭和11年9月10月
87	ULTRA SPEED ・茶	仰秀寮記念祭二号飾物	昭和15年10月13日
88	ULTRA SPEED ・茶	仰秀寮記念祭NO.3飾物・祭りの火・穆寮・寮祭後ノコンパ	昭和15年10月13日
89	ULTRA SPEED ・茶	仰秀寮入寮・ストーム・コンパ	昭和16年4月
90	Fuji PANCHROMATIC PLATES・茶	仰秀寮野球	昭和16年1月
91	ULTRA SPEED・茶	仰秀寮一号入寮・ストーム・入寮式・檄文・歓迎コンパ	昭和14年4月
92	オリエンタル ULTRA SPEED・茶	仰秀寮寮祭一号	昭和14年10月15日
93	オリエンタル ULTRA SPEED・茶	仰秀寮寮祭二号	昭和14年10月15日
94	ULTRA SPEED・茶	寮祭二号劇	昭和13年10月15日16日
95	Fuji PORTRAIT PLATE・茶	静高運動会	昭和12年5月9日

（附録２） 各大学アーカイヴズ調査報告資料

金沢大学資料館

住所：金沢市角間町

開館時間：平日　10:00～16:00

休館日：土日祝日　年末年始

入場料：無料

ウェブサイト：http://museum.kanazawa-u.ac.jp

金沢大学資料館は、大学が現在の角間地区に移転したのを契機に 1989 年に誕生した。パンフレットにあるように、資料館は「金沢大学とその前身校、およびそれらに関係した人々の、学術資料・記録・文書等を収集・整理・保存並びに展示・公開するなど、これらの資料を活用するための利用環境を整備するとともに、関連分野の教育研究活動や金沢大学の管理運営、自校教育、社会貢献、広報活動等に資することを目的」としている。一言でいえば、金沢大学資料館は、大学博物館と大学文書館の機能を併せもつ施設である。

金沢大学資料館の展示室入口

金沢大学資料館の主な活動は、資料の収集・整理・保存ならびに展示・公開、およびそれらに対する閲覧や問い合わせのへの対応などである。また、2009 年から新たに「金沢大学ヴァーチャル・ミュージアム」の事業に着手し、所蔵資料のデータベース・リポジトリーを構築するとともに、それらを Web 上で展示するという先端的な企画に取り組んでいる。

特別展「二十年目の邂逅」の展示

金沢大学資料館は、角間キャンパスの北地区にある中央図書館の隣にある。筆者が訪問した 2013 年 11 月には、ちょうど「二十年目の邂逅―泣き別れになった四高物理実験機器―」という特別展を開催していた(写真参照)。金沢大学は、前身校の一つである旧制第四高等学校の多数の物理実験機器群を所蔵していたが、それは現存する旧制高校物理実験コレクションの中でも最大級のものであった。機器群は、四高から金沢大学教養部に伝えられ、使用されていたが、1993 年に教養部が角間地区に移転する際、あまりに大量だったこともあり、一部が金沢大学資料館に、もう一部が石川県に寄贈され、石川県立自然史資料館に所蔵される運びとなった。今回の「二十年目の邂逅」は、本来はまとまっていたが、泣き別れになってしまった旧制第四高等学校の物理実験機器群を、もう一度集めて展示するという興味深い企画である。別れ別れとなっていた実験機器が、実際に今回の特別展によって復縁？したもの(ドイツ製の顕微鏡や写真機など)も展示されており、タイトルの意味がよく理解できた。

1894 年に発足した旧制第四高等学校は、金沢大学の教養部に組織替えされる 1949 年の時点で、1631 点の物理実験機器を有していた。金沢大学の教養部が、その一部を廃棄したこともあり、1993 年の時点で 794 点をもっていた。その内、91 点が金沢大学資料館に移管され、703 点が石川県立自然史資料館に譲渡されたという。このプロセスを遡及して調べるだけでも、大変な労力を要したのではと感じた。しかし、今回の特別展は、物理実験機器を単に集めたというだけにはとどまらない意義をもつだろう。それらを体系的・歴史的に展示し、明治以来、イギリスやドイツ、合衆国から輸入されていた実験機器が、やがて国産メーカーのものに代替されていく過程を歴史的に展示し、科学の受容や科学教育の変遷を見事に解き明かしたのである。今回の特別展は、日本の大学における近代科学受容の歴史と実験機器国産化の様子を説得的に示したと言えるだろう(写真参照)。

加賀藩校「経武館」の扁額

野村真理教授と古畑徹館長

資料館は、４万５千点以上のモノ資料と１万１千以上の古文書史料を所蔵しているが、すべてを展示することは不可能である。それらの資料は、通常は所蔵庫に保管されているが、あまりに巨大ということもあり、普段から公開されている「お宝」に遭遇した。それが加賀藩校「明倫堂」と「経武館」の扁額である(写真参照)。あまりにも巨大で他を圧する二つの扁額を見上げながら、金沢大学が加賀藩以来の長い伝統の上にあることを想起した。実際、金沢大学の歴史的起点は、1862(文久 2)年に始まる加賀藩彦三種痘所とのことであった。

金沢大学資料館の多様かつ先進的な活動は、同じように地域に根差す静岡大学にとって非常に参考になった。静岡大学もまた、旧制静岡高校を初めとするいくつかの前身校の伝統の上に成り立っている。静岡大学は、大学博物館を有しているが、まだ大学文書館はない。大学の歴史をたどり、前身校へと遡及するためにも、貴重な資料を収集・整理・保存ならびに展示・公開する施設が整備されることは不可欠の課題であろう。

筆者が訪問した 2013 年 11 月 15-17 日は、金沢にしては比較的暖かな天候だった。しかし、恵まれたのは天候だけではなかった。今回の金沢大学資料館の調査に当たっては、金沢大学人間社会学域・経済学類の野村真理教授が仲介の労をとっていただき、資料館長の古畑徹教授とコンタクトをとって下さった。お蔭で古畑館長に直接、資料館を案内していただくという恩恵に浴することができた。休館日にもかかわらず、大学まで来ていただいた古畑館長は、初歩的な質問にも懇切丁寧に答え、今回の特別展の狙いや苦労談などを披露して下さった。野村教授の仲介と古畑館長の案内があったからこそ、金沢大学資料館の概要や特別展の意義をよりよく理解することができた(写真参照)。記して深謝申し上げる次第である。

(2013 年 11 月 16 日調査、2014 年 1 月 14 日記、岩井　淳)

広島大学文書館

住所：東広島市鏡山１丁目１番１号

開館時間：平日　9:30～16:30

休館日：土日祝日　年末年始

ウェブサイト：

http://home.hiroshima-u.ac.jp/hua/index.html

広島大学文書館（以下、文書館とする）は、国立大学法人化とともに 2004 年 4 月に発足した。ウェブサイトにあるように、「広島大学にとって重要な文書の整理・保存並びに大学の歴史に関する資料の収集・整理・保存及び公開を行うとともに、関連する分野の教育研究を行うこと」を目的とした、広島大学のアーカイヴズ組織である。2011 年 4 月には、公文書等の管理に関する法律に基づく「国立公文書館等」として、内閣総理大臣の指定を受けている。

閲覧室の資料展示

広島大学文書館は、公文書室と大学史資料室の二室体制で運営されている。公文書室は広島大学から移管された法人文書などを所管し、大学史資料室は広島大学に関係する個人や団体の文書などの資料を所管している。公文書室では、広島大学の業務支援機能を高めるため、文書館本館とは別個に、大学本部棟にも公文書分室が設けられている点が注目される（この点については後述）。また、大学史資料室は、広島大学の特徴を表す特殊文庫として、森戸辰男記念文庫（初代学長に関する資料約 37,000 点）、平和学術文庫（広島大学関係者による原爆被害解明や平和への取り組みに関する資料約 16,000 点）、梶山季之文庫（旧制広島高等師範学校出身のベストセラー作家に関する資料約 10,000 点）の三つの文庫を擁している。

収蔵庫（森戸辰男記念文庫）の説明

広島大学文書館の活動は、法人文書の管理及び移管・整理・保存・公開、大学関係資料の収集・整理・保存・公開、所蔵資料や広島大学の歴史に関するレファレンスへの対応、所蔵資料を中心とした調査・研究、自校史教育（教養的教育科目「広島大学の歴史」の開講）、公開講座・企画展による社会貢献など、非常に多岐に及んでいる。さらに、文書管理に関する研修も学内外で行っており、とくに中国・四国地区国立大学法人等公文書管理研修の実施など、文書管理における地域研修の中核的拠点として機能している点は特筆されよう。

2014 年 1 月 24 日、湯之上隆と筆者が訪問した際、対応をいただいたのは文書館長の小池聖一教授と大学史資料室長の小宮山道夫准教授であった。小池館長は、文書館に関する我々の質問への丁寧な回答に加え、全国の大学文書館自体が置かれている現状、文書館設置に至るまでの広島大学での経緯、文書館運営における学内外での協力体制、法人文書の管理に関する特徴的な取り組みなどについて、熱心に解説してくださった。とりわけ興味深かったのは、大学本部の財務・総務室グループと連携のもと、協同した文書管理が行われている点である。その結果、現用記録の段階から法人文書のライフサイクルが整備され、文書の移管・廃棄作業などの省力化が可能になっている。また、前述のとおり大学本部棟には公文書分室も設置されており、本部業務組織の文書と学内刊行物の集中管理が実現し、業務の効率化が可能になっている。文書を作成する側と、その最終的な受け入れ側とが一体となった、極めて先進的な取り組みといえるだろう。

小宮山資料室長による館内設備の説明

一方、小宮山資料室長からは、文書館内の設備と収蔵庫・収蔵資料について、長時間にわたり丁寧な案内をいただいた（写真参照）。おかげで、資料群ごとに区分された収蔵庫の様子や、具体的な文書管理・収蔵方法の実践について詳細に知りうることができた（写真参照）。とくに参考になったのは、既存の建物の活用方法である。文書館本館の建物は、もともと音楽教育用の棟として建てられたものであり、資料の収蔵庫として当初から整備されたものではない。しかし、文書館では資料群の規模に応じて、かつての個人用の狭い音楽レッスン室なども活用するなど、さまざまな工夫のもとに資料の収蔵を行っていた。こうした既存の建物の活用方法は、当面は新規の文書館建設が困難な状況にある静岡大学においても、参照すべきものが多いと思われる。限られた予算とスペースのなか、いかに効率的に文書管理を行うかという点で、多くの知恵と工夫を垣間見ることができたのは大きな収穫であった。

最後に、見学を終えて抱いた感想について、若干述べておきたい。まず強く感じたことは、広島大学文書館が全国の大学文書館のなかでも、先進的な取り組みの数々を実施していることである。文書管理における研修では、学内の教職員はもちろんのこと、学外の国立大学や民間団体などに対しても、文書館が果たしている役割は非常に大きい。また、大学本部との協力体制のもと、大学としての一貫した文書管理システムが構築されている点も興味深かった。事実、文書館の取り組みは、外部評価でも極めて高い評価を受けている（『平成 24 年度　広島大学文書館外部評価報告書』広島大学文書館、2013 年）

次に、そうした先進的かつ旺盛な文書館の活動を、兼任館長 1 名・専任館員 3 名という非常に限られたスタッフで支え続けている点である。これは、館長以下のアーカイヴズ事業に向けた強い熱意と不断の創意工夫とが、それを可能にしているように感じられた。文書館では、館長自らが、館長としての業務の傍ら、資料群の目録整理作業を日常的に行い続けているという。大学アーカイヴズの最前線とそれを支える館長以下の並々ならぬ努力には、大きな感銘と刺激を受けた。

以上の広島大学における実践例は、今後の静岡大学における大学アーカイヴズ事業をすすめていく際にも、一つの道標になるものであろう。現在の静岡大学人文社会科学部では、教員の片手間にアー

カイヴズ事業を行わざるをえない現状にあるが、そうした状況下でも、創意工夫しながら事業を前進させていくことが重要である。文書館を見学して、筆者自身大いに勇気づけられたものがあった。

末筆ながら、多忙な業務の合間を縫って、貴重な時間を頂戴した小池館長と小宮山資料室長に、深く御礼申し上げる次第である。

（2014年1月24日調査、2014年2月15日記、今村直樹）